

熊本駅周辺地域
都市空間デザインガイドについて
(素案抜粋)

熊本県・熊本市

平成19年 2月19日(月)

第 章 デザインガイドの概要	1
第 章 都市空間デザインの基本方針	4
第 章 都市空間デザイン指針	6
《 - 1 . 3つの景のデザイン指針》	6
1 . 出会の景	7
2 . 木立の景	11
3 . 水辺の景	14
《 - 2 . 生活空間のデザイン指針》	16
1 . 基本方針	18
2 . 東側地区の生活空間	19
3 . 西側地区の生活空間	22
4 . 主要な道路空間	25
第 章 デザイン調整の仕組み	28
1 . デザインの取組み	29
2 . デザイン調整と体制	30

第 章 デザインガイドの概要

1 . ガイドの構成	2
------------------	---

「ガイド本編」と「手引き編」の構成を示します。また、具体的な設計資料をプロジェクト資料として蓄積し、情報の共有化によるデザイン方針の一貫性を確保します。

デザインガイド本編	第 章 デザインガイドの概要	デザインガイドの位置づけや内容、および構成を示しています。
	第 章 都市空間デザインの基本方針 1. 現状の特性 2. 関連諸計画のまとめ 3. 目指す将来像 4. 都市空間デザインの基本方針 5. 都市空間の基本構成と全体像	「熊本駅周辺整備基本計画（平成17年6月）」に記された将来像を実現するための都市空間デザインの基本方針を示すとともに、この地域の空間構成を設定します
	第 章 都市空間デザイン指針 - 1. 3つの景のデザイン指針 1. 出会の景 2. 木立の景 3. 水辺の景 - 2. 生活空間のデザイン指針 1. 基本方針 2. 東側地区の生活空間 3. 西側地区の生活空間 4. 主要な道路空間	この地域の骨格となる空間について、デザインコンセプト・空間の考え方・空間のイメージを示しています。 上記以外の空間を生活空間として、まちづくりを進めるうえで大切な視点を示しています。
	第 章 デザイン調整の仕組み	デザイン調整の取組みと、その体制及び流れを示しています。

デザインガイド手引き編（別冊）	. 「景」別デザイン手引き 1. 出会の景 2. 木立の景 3. 水辺の景	本編で示された「3つの景」の具体的展開例を示しています。
	. 要素別デザイン手引き 1. 歩道路面仕上げ 4. 照明・夜間環境 2. 親緑・親水 5. サイン 3. 街 具	要素別にデザインの具体的展開例を示しています。
	. 民有空間デザイン事例 1. 壁面後退区域の利用 2. 外壁のしつらえ 3. 屋外広告物 など	民間の建物を整備する際に参考となる事例を紹介しています。

個別プロジェクト資料

デザインガイドに基づいて整備された施設の資料を蓄積し情報を共有化します。

第 章 都市空間デザインの基本方針

- 1 . 都市空間デザインの基本方針 ----- 4
- 2 . 都市空間の基本構成と全体像 -----5

目指す将来像を実現する都市空間のデザインについて、基本的な方針を示します。

目指す将来像を実現するためには、まちを構成する多様な場所や施設が互いに協調しながら、誰もが使い勝手がよく、居心地よく住みやすい、地域としてのまとまりが感じられる都市空間をデザインすることが大切な要素と捉えて、基本方針を次のように設定いたします。

都市空間デザインの基本方針

駅として使いやすく、

公園として居心地良く、

街として住みやすい

熊本に育まれた文化に根ざした都市空間

古より熊本に育まれた文化「簡易・善良・素朴の精神」に根ざしたまちづくりを目指して、過度に華々しい開発を競うのではなく、風土や自然環境に配慮すると共に、個々の空間が互いに協調し、人や自然にやさしいまとまりを備える、環境の世紀にふさわしい新たな熊本・都市空間を創出します。

大切にしたい駅周辺の都市環境



地域のシンボルとなる熊本らしい緑



花岡山を望む広々とした空



都心部に繋がる自然豊かな空間

まちづくりの目標達成のために、都市空間をデザイン展開する基本構成の考え方を示します。

(1) 都市空間の基本構成

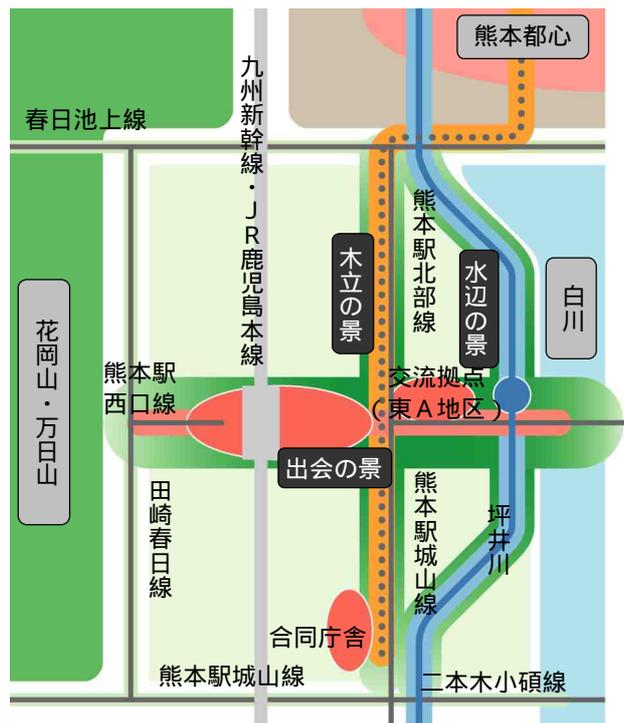
3つの景を中心に、わかりやすい都市空間を構成する

新たな玄関口形成の特徴として、3つの“骨格をなす都市空間としての¹景を位置づけます。

これらの“^景”は、それぞれの空間の個性(空間特性)を活かしながら調和した連続性を見せることで、わかりやすい都市空間を構成します。

「^であ^いけ^い」から「^こだ^ちけ^い」「^みず^べけ^い」へ、さらに「生活の空間」へと、地区全体ににじみ出すような都市空間の創造を目指します。

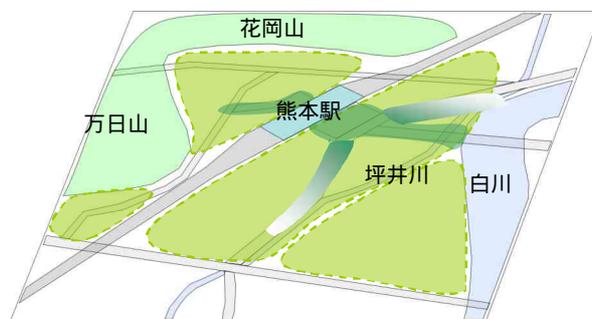
- 1 熊本駅周辺地域整備基本計画では、「3つの軸」として表現していましたが、空間デザインを考えるうえでは「ひと」の視点を大切に捉えることとし、人がまとまりを感じる空間として「景」として表現しています。



まち全体のまとまりを、緑をベースに構成する

万日山や花岡山を借景とする地域の中に、新たな整備で創出する緑だけでなく、地域住民に親しまれてきた既存の緑や庭先の緑も合わせて、まち全体のまとまりを緑の表情を活用して構成します。

基本構成で大切なポイントは、緑の活用と連携しながら、空間や施設がそれぞれ単独ではなく、互いに関係性をもったトータルデザインによる都市空間を、緑をベースに構成することです。



緑のまとまりの概念図